

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	早期療育専門ぱちぱち		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 20日		～ 2024年 11月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間で話し合う機会が多く、毎日タイムリーに情報共有や意見交換を行うことが出来ている。その為ご家族からの相談があった際にすぐに対応することや、職員のスキルアップにも繋がっている。	毎日の朝礼及び終礼にて前日・当日の振り返りや意見交換、面談内容の共有等を実施。議事録に残し不在の職員にも共有。月例及び土曜日全体研修の実施。他の職員が記載した活動記録やそれに対する保護者コメントを全員で閲覧し共有。	
2	個別支援計画作成にあたるプロセスにおいて、保護者の意向をお聞きするのはもちろん、支援にあたる職員全員の意見を聞き、計画に反映させている。その為計画と実際の乖離なく、計画を元に統一した支援を行うことが出来ている。	モニタリング時期には独自の「アセスメント・モニタリングシート」を全職員で全児童分記入し、そのシートを持ち寄り個別支援計画作成会議を行なっている。	モニタリング時期に限らず、アセスメントをとり共有できるシステムを構築する。特に新規の児童については5領域を踏まえた初回アセスメントをしっかりと行っていく。
3	療育プログラム会議を行い、5領域の中でも更にねらいを明確化させた集団プログラム及び個別プログラムを考案しているため、子どもたちの5領域ごとの支援目標とマッチした療育を展開できている。固定化や偏りを防ぐため、週ごとにリーダー職員を複数名で回している。集団での苦手を個別で補ったり、個別で身につけたことを集団で生かすことが出来るよう、集団と個別の両方からアプローチを行なっている。	療育プログラム会議を開催し、うまくいった点や改善が必要な点など意見を出し合い、独自のシートにプログラム(ねらい・内容・準備物・注意点など)を記載している。1週間ごとにリーダー交代制でプログラムを決定し、プログラムを考案する週、準備をする週、実施する週を回すことで、ゆとりを持って準備が出来るように工夫している。	より専門的に記録を共有できるよう、『個別療育評価シート』を導入する。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルに沿った訓練(防災・防犯・事故等)の実施がまだ十分に出来ていない。	全体研修やミーティングにおいては療育に関することや、個別支援計画及び虐待防止がメインとなっているため。	危機管理に関する研修を別日で定期的に設けていく。今年度は11月から12月にかけて実施する。
2	家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族が参加できる研修の機会を作ることが出来ていない。	意向を聞くことが出来ていないため。	希望される家族については、そのような機会を来年度は実施できるよう内容も含め検討していく。
3	地域の中で他の子どもと活動する機会を作ることが出来ていない。	インクルージョン推進に向け、利用児童が通う園や進学先の学校との連携は行なっているが、その他の子どもと活動する機会については必要性の認識に欠けている。	プライバシーの観点も踏まえ、今後検討していく。